令和６年度　第１回 香南市産業振興計画策定委員会　【議事録】

□日 時　：令和６年５月27日（月） 14：00 ～ 16：30
□場 所　：香南市役所本庁舎３階　303～305会議室
□出席者 ：〇策定委員 14 名【別府委員（副委員長）、石丸委員、三谷委員、福井委員、岡本委員、梶原委員、北川委員、明石委員、川﨑委員、小笠原委員、森尾委員、松村委員、國常委員、江口委員】
〇策定委員代理１名【松田様（JA高知県香美地区営農経済センター部長）】
〇市職員 17 名【濱田市長、北村課長（総務課）、中島課長（情報政策課）、西内課長、近藤補佐、小林係長（企画財政課）、小松課長、佐田補佐、川西係長、久武係長、澤村主事（農林水産課）、萩野課長、中屋係長、藤原係長、平尾主幹、小松主事、府川（商工観光課）】
〇傍聴者１名
□欠席者 ：〇策定委員２名 （赤池委員、中田委員）

◆開催目的
令和５年度の総括及び令和６年度の取り組みについて、また、当計画の変更点について各分野の担当課長より報告及び説明を行い、各分野別部会長をはじめ、有識者や産業関係団体の代表者と分野を超えた横断的な議論を交わす。

◆内　容
・　令和６年４月23日から５月１日までに開催された各分野別部会の協議内容と総括及び令和６年度の取り組みについて各担当課長より報告。
・　各部会長より補足説明等
・　上記のことについての意見交換
・　次期計画の策定について協議

1．開 会
事務局挨拶
委員２名の変更と代理出席者１名、欠席委員２名について報告。
オンライン（Zoom）でイシン株式会社の明石委員が参加。
本日の会は過半数以上の方の出席により、成立する旨を報告。
（香南市産業振興計画策定委員会設置条例第６条）
委員自己紹介

2．市長挨拶
（濱田市長）

産業振興計画策定委員の皆様お一人お一人のごあいさつを聞き、香南市は本当に恵まれているなと感じている。

観光の分野から、商業工業、農業、様々なある種すべての産業が揃っている。

少し前4月だったか、消滅自治体というのが大きく新聞の見出しに出て、人口減少が本県の中でも著しく進行している。30年後において、一番人口減少率が高いところになると、今の人口の80%減というふうな数値も出ている。県内で最も人口減少率が低いのが、我々香南市だというふうに承知をしている。本市はまだまだチャンスがある。

今日集まりのそれぞれの分野の皆様が日々ご尽力されているが、それでもなお相当厳しい局面がこれから予想され、さらに物価高、様々な値段が高騰し、人件費が上がり、厳しい状況が続いていく。

我々がいかにその傾向に抗っていくか、それを止めるというのは非常にハードルが高いと思うがこの香南市としてチームとして、抗っていける、まさに中心的役割を担うのが、この産業振興計画ではないかと思う。

それぞれの分野の皆様のお知恵をちょうだいし、そしてまた全体として底上げをしていく。そのような産業振興計画になるよう皆様のご尽力を心よりお願い申し上げ、私からのご挨拶とさせていただく。どうぞよろしくお願いする。

3. 議　事　（進行：別府副委員長）

① 令和5年度の総括及び令和6年度の取り組みについて

【農業分野】

・農林水産課　小松課長より、農業分野における令和５年度の総括及び令和6年度の取り組みについて説明。

・農業部会　石丸部会長より部会の様子や補足の説明。

【林業分野】

・農林水産課　小松課長より、林業分野における令和５年度の総括及び令和6年度の取り組みについて説明。

・林業部会　三谷部会長より部会の様子や補足の説明。

【水産業分野】

・農林水産課　小松課長より、水産業分野における令和５年度の総括及び令和6年度の取り組みについて説明。

（別府副委員長）

農林水産業分野について報告があったが、ご意見、ご質問があればお願いしたい。

（福井委員）
　水産業分野、漁獲量の減少というのがあった。気候のこととかいろいろあるとは思うが、例えばシラスなら多分この前の海で取れていると思うが、海の環境、例えばごみの問題などもあるので、山から流れてくる水で海は豊かになっていると思うので、清掃などの活動を例えば森と一緒になってやるとか海の方で頑張ってやる。他のところでごみ問題に取り組んでいる方たちも、どんなふうに考えているか。

（別府副委員長）
　不漁の原因とかも含めて小松課長いかがか。

（小松課長）
　不漁の原因は天候とか自然環境の影響がほとんどだと思う。一番の原因は黒潮の南下、南の方に黒潮が行ったことにより、土佐湾に魚が入ってこないのが原因ではないかと言われている。
　ゴミのことは、確かに山や木、台風などによって砂浜にも大量の流木が打ち上げられるということもある。海に出てきたごみについては、漁業者にもお願いをして、清掃を行ってもらったりしている。砂浜に打ち上げられたものについては、一気にはできないが、少数にはなるが年１回、2回の清掃は行っている。どこから流れてくるかわからないものであり、なかなかすべて取るということも難しいという状況。

（福井委員）
　マイクロプラスチックの問題やいろいろあると思うが、直近では6月2日の日曜日に岸本の一寿司会館の前を、朝9時から清掃しようという活動もあるので、また皆さんの中で参加できる方がいたらよろしくお願いしたい。

（松村委員）
　今地域計画の方で、農業委員としては目標地図作成ということで、農林水産課の方との話し合いの場を、地域の人を呼んで話し合う場を設けているが、やはりこれから10年先、誰が担うのかという地図を作って、そこに国がどう補助金を入れていくのかというさび分けをする段階で、地域の農業、農地を持っている方や耕作している方が来てくれて、話し合いをするというのが一番いいが、地域計画という言葉だけでは住民の方に対しての理解が浸透していないのかなというのがあり、本当に地元の人が来るのと来ないのでは全然違う。
　話し合いの場の雰囲気や、これから先どうしていこうという話し合いも、実際にそこの農地に携わる人が参加しなければ、なかなか行政だけでは進まない問題なので、そこをどう周知していくかということがとても大事なのかなと思っているところ。地元の人に、ただホームページなどで連絡するだけではいけないので、私たちも誘ったりしている。
　来ると大切さがわかるが、来なかったら来なかったで全然関心がない、となるので、その農地を持っている人が高齢化で自分ができないことを、でもこの先地域をどうしていくかということを真剣に考えるにはどうしたらいいかという、ご提案、アイデアがあったらみなさんに考えてもらいたいと思う。

（別府副委員長）
　今重要な地域計画、今後の香南市の農業をどうしていくかというものを作っているところで、松村さんのご指摘はどちらかというと、住民の方で農地を持っているけど、自分は農業をしてないという人、或いは全然農業に携わっていないけれど、田んぼのそばに住んでいるとかそういう方も含めてのイメージですか。

（松村委員）
　それこそ、これから先その農地をどうしていくかということに対して、その後継者の方が農業に全然関心がなかったとしたら、誰かにしてもらわないといけない。ただもううちは誰もする人がいないということで終わらせるのではなくて、じゃあどうやって地域で考えていくかという機会なので、そこをもっと真剣に思ってくれるような、何かアピールの仕方というのがなければ進まない問題かなと思う。

（小松課長）
　確かにその地域の農業の継続というのは非常に難しい状況の中で、地域計画の前の人・農地プランの策定の時には、全農家を対象に声掛けをしたが、今以上に集まらない状況だった。本当に数少ない中で、農業委員さんの方が数が多いといったような状況で、今回は認定農業者の方にはがきで手紙を送って、電話も直接かけて来ていただくようにお願いをして、今地域で策定、皆と座談会を開いておるところ。
　やはり周知方法も難しいし集まってもらう、その関心をどういうふうに高めていくかというのは我々もすごく悩んでおるところで、今後どういうふうに地域計画を進めていくかというのも、係員とも話をしながら進めていっているが、ぜひ農業委員さんや今まで来ている方からも口づてで構わないので、できたら宣伝もしていただいて、少しでも関心を高めていただけたらと思っているのでよろしくお願いしたい。

（石丸委員）
　森林分野の資料２の８ページの中で、森林境界明確化ということで、うちの親父もそうだったが、親が昔山ブームというブームがあり山を農家の方で持っている部分がある。
　僕も大豊の方で一つ山があり、中学校の時にこの境を一緒に見に行った経緯がある。50年前なのでもう多分今行ってもわからないと思うが、親父が２年ぐらい前に亡くなってその登記をするのに大豊まで行って、確認して、大豊の町役場まで行ってそれから現場を航空写真で見せてもらい、いずれそこに行かないといけないと思うが、多分、山を持っている方がこの登記もしないまま、何代も前、おじいさん、その前先祖代々まで置いておくと非常に今度登記をし直す時に苦労があると思う。
　何代も前にさかのぼると、そういった点でやはり次の代へ登記を進めていかないとなかなか後々面倒くさい。結局親が亡くなったらすぐ登記をしていくような方向で、やはりやっていかないといけないが、山の登記の具合はどういうふうになっているのか。

（三谷委員）
　法律としては「権利が発生したから３年間の間に登記をしてください。」と少しだがペナルティのあるような法律になったので、もう少し進んでいくのかなという気はしている。

けれどやはり山に対する関心、普段生活しているところではないので。
石丸さんは自分で調べて、きちんと登記をしようという思いで今やっておられるということなので非常に僕たちとしてはありがたいこと。その他の人にとっては非常におっしゃる通り、おじいさんの代とかひじいさんの代そのまんまというのは結構ある。そうなってくるとやはり法律上あまり詳しくないが、そこから枝分かれした、いとこやはとこと、全員にはんこをもらわなくちゃいけないということになるので、その方が亡くなっていたらまたその下、延々はんこをもらっていかなければならないということに多分なると思う。今の法律では。なので、遅くなればなるほど、登記はしづらくなる。
地籍調査も市の方からの委託でやらせていただいているが、多分市が全部それを調べていただいた、そのあとの境界線を調査していくということをやらせていただいているが、その境界線、所有していることも本人多分分かっていないので、それの上に境界線を教えてとうちが言ってもなかなかそこまでたどり着かないというところ。それこそこれに書いてあるポンプレーザー測量だと、畝段がきっちり把握できる。それと明治維新時に作った字切図。ただの線で描いただけのもの。現地に行って測ったりとかそういうことではなくて、こんな形というのをもとに境界線をしていっているというのが、現状ではある。
非常に困難なことをやらせていただいているということである。
ぜひ、できれば、皆さんのおじいさん、お父さんがご健在なうちにいろんなことをしておいていただければ、助かりますということである。

（國常委員）
農業とか水産業はやはり新しくなる方が少ないというところが問題だと思うが、やはり農業って面白いな、水産業って楽しそうなんだなという魅力を子供たちにもっともっと伝えていくというのが子育てをしていてすごく大事な視点の一つとして思う。
水産の方は、ビデオを小4、小5で流してとお話があったが、農業の方は、子供たちに対して何か農業体験とか、遠足でみかん狩りに行くという収穫だけは子供から話を聞くが、種を蒔いてから大きくなって収穫するまでというような流れがわかるような体験などができたら、興味が湧く子供も多くなるのではないかなと思う。

（石丸委員）
あまり詳しくは分からないが、一応香美地区の中ではピーマンなどは、7月ぐらいに赤岡小学校と吉川小学校が（シーズン）最後の収穫体験をしている。
また、各保育園でもお芋植えとか、お芋掘りの体験もやっている保育所もあるので、そういう体験からやはり子供さんに植えた苗から収穫した時の大きいお芋になった楽しみ、それらも伝えていったらいいかなと思うし、今夜須の方でメロンの授業をやっておると思うので、学校の方で子供たちに1年間の農業の苗を植えてから育つまでの経過を、授業などで農協の方も一緒になって、指導者が学校に行って子供に教えていくことも大事だと思うので今後広げていきたいと思う。

（三谷委員）
林業の方もぜひ行かせていただきたいと思っている。香美市では、小学校や、大学生なども刃物研ぎに来てくれたりとか、いろんなことをやらせてもらっている。香南市の方でまだそういうことができていないので、ぜひ、香南市でもやりたい。林業と言うが、山切って、

斧を振っているわけではないので。今本当に機械化されていろんな機械、パワーショベルなどを使っており、のこぎりで切ったりはしない。本当にいろんなことがドーンと進んでいて結構かっこいい林業というのができつつあるので、ぜひ見ていただきたいと思っている。

（別府副委員長）
　また教育委員会とも話をしたいと思う。

（松田委員）
　自分の方でも、田植え、稲刈り体験を中学生がやってみたり、声がかかれば農協の方でも提案して、部会に交渉をして、体験をしてもらっている。
　高知大生なども、農学部の生徒が出荷場の方へ、例えば香我美ならナスの選果機が入っていたが、生産者がナスを作って出荷して、製品になるまでの工程を見学してもらったりというところはやっており、これからもそういう声があれば協力したいと思っている。

（松村委員）
　佐古と野市は毎年田植え体験と稲刈りは学年でやっている。
　多分地元や青壮年部が関わったり地元の人が関わったりしてやっているので、またいい案があったらください。

（別府副委員長）
　まず稼ぐ、体験などで子供がなじむというのもあるが、とにかく稼がないといけないので、その取り組みを少し、前回の会議でもありましたが４月に入って進捗含めてもう１回話を。（特別栽培米の）資料をつけさせてもらっている。

（小松課長）
　先ほど各委員さんからいろんな取り組みについて話がありましたけども、例えば中学生だったら、先ほど言った香我美町では田植えと稲刈りを経験したり、小学生では何回もではないが、裏の畑でニラを作ってもらって、その成長を見ながら、収穫して、その収穫したものを子供食堂などに持っていって食べてもらう、もしくは高齢者のデイサービスの施設に寄贈して食べてもらうとか、そういったことをしたこともあった。
　なかなか世話のかかることであり、先生の負担も結構かかるので今はまだコロナの関係もあって取り止めておるところ。
　特別栽培米はこの間市長からも、前回の会議の時に説明があったが、少しでも安心安全なお米を食べていただこうということで、特別栽培米を再来年度から学校の給食の方に入れていこうという計画を立てている。
　また、そのほかにも香南市の有機栽培に取り組んでおる農家さん、そういった方々と連携をして、例えば保育園とか、そういったところに年に何回か有機栽培の作物を食べていただくというようなことも今は考えている。

（濱田市長）
　香南市は私が就任以来こどもまんなか社会ということで、これから人口減少が進む中において、高知県も含めて、子供をいかに生み育てやすく、そしてまた人口が減っていくのをい

かに抑えていくかということを大きなテーマとしている。
　しかし、今現状を見回していただくとわかるように、いろんな場において今やっていることというのは、例えば、我々はまだできないが、給食費の無償化、保育料の無償化、これはもうそれぞれの自治体が我慢比べをしているのみであり、それをやって、同じ人口の中で各自治体が取り合いをしているだけというのが、客観的に見た現状である。
　香南市は、先ほどの根本的な問題として、農家さんが辞めていかれる方が多く、その方々が野市町で田を売り畑を売ってそこに家が建つ。その中で選んでいただき、香南市いいなという方が多く来ていただいておる関係で人口減少は一定抑制されているが、これからどの市町村も、もう一段階踏み込んでくるとなると、ほぼほぼサービスというのがおそらく一定になる。
　私からすると国がこんなことやらなければいけない。当然国がやるべきことだと思うが、現状はできていない。
　香南市で1年間、給食費を無償化すると1億5000万かかる。
　そういうお金を1回だけじゃなくて毎年出していくにはどうやったら捻出するのか、そういったことは小さな自治体ほどやりやすい。
（他自治体で）保育料無償化、給食費無償化などの話がある。それは我慢すればできるが我々これだけの産業を抱えてこれだけの人口の中でそれをやるとなると、どこかで今まで出していたお金を譲らなきゃいけない、なくしていかなきゃいけないということがあるのでなかなか踏み込めないが。
　その中において、我々は他と違うところをどう出していくのかというところで、その一つとして今回特別栽培米というのをこれから農業公社が作っていく。特別栽培米というのは、お米の農薬の量を一般のお米より半分にする。当然今食べておるお米も安心安全であるが、それをより安全に、農薬が少なければ少ないほど安全であると思われるので。
　農業公社でこの春から米を植えており、いずれは給食に使う。
　現在香南市の給食で食べられているお米は全部香南市産のお米だが、特別栽培米を使っていくことによって、子供たちにとってもいいし保護者にも安心である。
　外から見たときに、子育てしようとこれから思う方々にとって、より香南市は本質的な安全、医食同源という言葉があるが、医療と食事、健康というのは食事から取っていこうという大きな流れの中で、一つ、他とは違う取り組みを始めたところ。それと同時に、農業に携わっていただいている方々がやはり、これまで以上に稼がなければいけないし、稼げるようにしなければならない。
　それともう一つ、これからの大きな可能性として、その物理的、金銭的な稼げることと、心が豊かになる、ある種、それが有機栽培ということに繋がるのではないか。オーガニックだったら有機と言われるとこう、非常にハードルが高く、他難しい問題はあるが、それをすることによって得られる、ある種の喜び、量が少なくて稼げなくとも手が込み、それぞれの思いで作られている方も一定おられるので、そういった方々も、農業をやってもらえるような香南市にしていく。それが、香南市の中で、慣行農業で稼げるそしてまた有機でもそれなりに満足して農業ができる。そういった環境ができれば、一定我々は農業というものが維持できるのではないか。まだ始まったばかりなので、そういうことを地道に進めていくことによって、子供たちにも保護者の方から声が届く、子供たち自身も自分たちが食べているものをいかに作ってもらっているのか、他の地域で見たらあっという間にできているものが、我々草刈を3倍も4倍もしなければならないが、それでもいいものを作って食べられている

ということが伝わるぐらいまでいけるかなと思っている。
　農林水産課はじめ農業公社そしてまた農家さんにもそういうことが広がるように、まず一歩踏み出したところなので、香南市はこういう取り組みで、農業を応援していきたいと思うし一緒にやっていきたいと思っている。

（別府副委員長）
　ここで休憩を取らせていただく。
　再開、15時10分からでお願いする。

★休憩（5分）

★再開（15時10分～）

【商業分野】
・商工観光課　萩野課長より、商業分野における令和５年度の実績値の修正について報告。令和５年度の総括及び令和６年度の取り組みについて説明。
・商業部会　福井部会長より部会の様子や補足の説明。

【工業分野】
・商工観光課　萩野課長より、工業分野における令和５年度の総括及び令和６年度の取り組みについて説明。
・工業部会　岡本部会長より部会の様子や補足の説明。

（別府副委員長）
　商工業分野について報告があったが、ご意見、ご質問があればお願いしたい。
　初めに、イシン株式会社の明石委員に高知オフィスオープン後１年を経過しての会社の状況や感想、また首都圏での現在の状況など、構わない範囲でご発言をお願いしたいと思う。

（明石委員）
　香南市さんのほうでサテライトオフィスという形で設置をさせていただいて、社員２名、東京からの出張１名と、１名を香南市さんで採用させていただいたかたち。
　主に業務としては、全国の自治体に対するアンケートと、あと最近はBPO、ビジネス・プロセス・アウトソーシング、業務を移管できるところをオンラインで移管して、サポートいただいいているというようなことをしており、長く、しっかり働いていただいて、非常に優秀な方々に出会えたなという感想。
　首都圏では、結構転職する人が多い。他にもいろいろ選択肢がある。
　ただ、香南市さんですと、比較的限られた企業しかオフィスワークの募集は限られている

というのがある。就職してからの定着率は非常にいいというのがある。
　最近の首都圏の雇用の状況を見ますと、非常に引き続き人手不足で、それで商売している人材派遣の会社さんは非常に活況を呈していると、あと働き方の多様性みたいな感じでフリーランス、何社も仕事を受けて、やっている。それに伴って地方、特に葉山とか、鎌倉とか、東京から1時間ぐらいのところに移住。家族でそっちに移住するという人も結構増えてきた。旦那さんが週1回ぐらいは東京都心に来てみたいな働き方をする人は比較的多く見られる印象。

（別府副委員長）
明石委員ありがとうございます。
それでは商業、工業分野についてご意見、ご質問等があればご発言を。

（江口委員）
　県としては産業振興計画、必要あれば県のアクションプランに位置付けてでもやると、私のポストにはそういうのがあるが、もう1つ実は今年度からものすごい使命を受けており、それが市長もおっしゃった人口減少対策の検討というところが一つ。
　人口減少対策やはり先ほどからたくさん出ている後継者不足や働く人の不足。そういうものを移住の人なのか、或いは自分のご子息を農業であればそのまま就農をお願いするとかいう部分もあろうかと思うが、やはり人口減少対策を突き詰めればこの産業振興というのは大変重要なのだろうというふうに考えている。
　やはり所得を上げる、そして若者を増やすというところである。
　人がいないとさらにもっと言うと産業の方も成り立たないというところがあろうかと思う。県としては34歳以下の若い方を何とか令和4年度ぐらいの水準に、10年かけて、今は黙っていても下がっている状況なので、それを戻そうということで、いろいろやろうと考えている。そんな中で、当然その出身の方が定住したり、就職したりする、或いは、移住の方を増やす。
　もう一つは、出産結婚を増やすというこの辺は、わりとイメージはつくが、今回、5年6年度の取り組みの中に担い手の確保という中に出てきていないものの中で、ぜひ聞いてみたいのが、農業と林業と工業、外国人の雇用について、地元の方々がどう考えられているかと言うところ。実は県の人口減少対策の柱、どうやって 34 歳以下を増やすのかということに、定住とか、出身の方を戻そうとか、あとは移住の人を増やそう、結婚出産によって子供を増やそうと、そういうのはある程度また今後皆さんからもご意見を伺うが、外国人の方について、例えば農業だったら、安芸の方ではピーマンやメロン、土佐市の方では、花き類、花やショウガなど、林業に関して言うと、技能実習制度が多分変わったと思うが、今後林業にも参入できるようになったというのがある。工業であったらやはり、外国人雇用というところも、視野にあるのかどうか。
　その業態の中でどういう話をされているのかなというところをぜひお聞きしたい。日本人の雇用を奪うとか、治安が悪くなるとか、マイナスイメージが若干あると思うが、その辺でどういうお話をされているのかなというところ。

（別府副委員長）
　工業では先ほども人手不足の話が岡本委員からあったが、今ももうだいぶ、外国人材入れられているのかもしれないが、ここで今の状況や課題、どんどん増やしたいなどあれば。

（江口委員）
　次期計画の中にどう入れていくのかなという、今多分その視点が計画の中にあまり書かれてない可能性がある。担い手確保という中で少しその辺、周りの感じ方も含めてどうなのか。

（岡本委員）
　弊社の現状ということでお答えすると、直接雇用というのは当然今のところない。今は技能実習生で6名雇用をしている。
　ただ、今の法制度の中では、幾ら実習生を雇っても年数が来たら帰ってしまう。直接この人口減少にどう反映されるのかなという、少し今の制度間の中では疑問もあるが。

（江口委員）
　増やすというなら、今の6名をさらに10名にする、もしくは今の技能実習の制度は、特定技能という制度に移行することができる。そうなるともうさらに10年雇用が可能になったりとか、どんどん今制度が変わっている時なので、私の情報は古いのかもしれないが、そういうものもある。さらに、その技能実習と合わせて10年ぐらい働けるというような制度もある。

（岡本委員）
　先ほど6名とお伝えしたが、この6名の次をどうするのかというところまで、検討に至っていないというのが正直なところ。本当に弊社でも即戦力として頑張っていただいているし、弊社以外にも他社で数名の技能実習生が働いている。

（江口委員）
　あまり他のところも増やそうとかそんな話にもなっていないというかそういう話題がないという状況。

（岡本委員）
　そうですね。ちょっと私の立ち位置ではあまりどう続けていくのかという情報はちょっと持ち合わせていない。

（別府副委員長）
　例えばこう、どんどん増やしていきたい、或いは増やそうと思ってもなかなかやはり地元の例えば住民の反対が結構あったりするとか、住むところが借りられないとかアパートが借りづらいとか、そのようなこともあったりするのか？

（岡本委員）
　正直その住み家をどうするのかというところは、この香南市でも課題になっていると思う。

あとは、技能実習生を一口に雇うと言っても、後ろに隠れた費用がかなりあるので、正直日本人の方を雇うほうが安くなるという意見もある。
　本当に私の思いで申し訳ないが、やはり雇えるなら日本人の方を雇ってという思いはある。

（別府副委員長）
　わかりました。
　なかなか大変で、すぐに日本人を雇ったらいい、難しければ外国人を増やしたらいいというものではないということ。

（石丸委員）
　農業分野については、先ほど言ったように芸西や安芸については１家庭でのピーマンの面積をかなり広くやられているということで、年間雇用で外国人の技能実習生を入れられている農家がいると思うが、香南市の場合は、ピーマンについては大体家族内労力でやれる範囲の面積であり、あまり外国人の実習生というのは入っていない。
　ただ、ニラについてはやはり、１農家当たりの規模は広い面積をやると、技能実習生、フィリピン、コロナ前になるとフィリピンの方が多かったが、コロナのあと、インドネシア、ベトナムの実習生がかなり入ってきており、大体２名から３名。かなり面積をこなしているニラの農家の場合は５名から６名ぐらいの実習生を入れている農家もある。
　実習生についてもやはり内容的に仕事のできる実習生もおれば、あまりできない実習生もいるということで、農家からの不満も出てきている。そういった点で、厳しい部分もあろうかと思うが、やはり確実に仕事をしてくれるということで、農家については実習生を頼っている農家がほとんどだと思う。
　３年間、農家実習するとまた次の人が今度入ってくる。コロナの時は３年間実習した後、こちらへコロナの関係で入ってこられないということで、１名から２名欠員になって困っていた農家も大分あったようだが、ここへ来て順調に作業してくれているのでよいと思うが、やはり今後、観光地についても外国人が増えてきたということで、農業関係、工業関係もこれからかなり増えてくるのではないかというふうにも思っている。
　そういった意味でニラの場合は、ハウスニラが始まり、今度は露地のニラ、農家によっては露地のオクラということで年間雇用をしているので、やはり１年間、技能実習生が働ける場所を作っていくというもとで受け入れ態勢をしている。
　農家も実習生を指導しながら１年間仕事を構えていくという大変な部分もあるが、やはり農家としては、仕事をまいてもらうようなサイクルでやっているのが現状である。

（三谷委員）
　林業は先ほど話があったようにまだその制度がなくて、１年間、今後３年とか５年に向けての制度を作っていく段階なので。
　ただ、林業でやるとなってもチェーンソーとか刈払機、全部資格が一つ一つ要る。
　今これは日本の国籍、要は日本人の方と結婚して日本の国籍を持っている方がうちにも来てくれており、日本語はもうペラペラだが、カタカナしか書けない読めない。その人たちが働いてくれるのに、資格を取るのに全部教科書に手でルビを振って、資格を取らせていただいたというような格好なので、まずその資格を取るために、どんなことを国なり行政がやっ

てもらえるのか。そこがないと、何もできないというような状況に今はまだありますということ。

（江口委員）
　実はこの技能実習の制度が今変わろうとしている。
　技能実習生の受け入れ、今も外国人材の取り合いのようになっているが、育成就労に変わってくると転職も可能になるなど、より過酷な人材確保競争のような形になってくる。
　先ほどあったが産業振興人口減少対策の一つとしてこれを考えるのかどうかというところが私の中で一つのテーマである。ここをあまり望まれていない地域でそういうのをちょっとという地域もあれば、やはり一番いいのは日本の方に就労してもらいたいけれども、課題なのであれば、外国人の方も何か対象にしたいのかとか、その辺の考え方みたいなものも、今後も継続してお話できれば。
　それ以外にも先ほどあったように定住、或いは移住、或いは出産、結婚という部分の中では、また皆さんにもご意見をいただきながらどういう策をやればいいのかというのと、やはりすべて産業振興には繋がるだろうという風には考えておるので、まずはいろいろご意見いただければと思う。

（石丸委員）
　技能実習生当初フィリピンの方が入り始めのころは、3年間日本で働けば3年後にフィリピンに帰れば大きい家が建ち、家族が裕福に生活できるので日本で3年間稼いで帰ろうというふうな計画で当初入ってきたところ。
　それがここへ来て、ベトナム、インドネシアの方が来るようになり、今、インドネシアやベトナムがどのような環境かわからないが、最終的に法が変わり定住になってくると、向こうに家庭があっても家庭を捨てたままこちらへ定住するのかなと。独身の人がこちらへそのまま残るのかというふうな心配もあるがそこのところは県の方どうなのか。

（江口委員）
　これは多分法制度の問題になるが、おそらく今考えられているものの中で定住10年などになると、家族の帯同が可能になるなど、これもまた勝手な推測ではあるが。
　ただ、特定技能という技能実習より一歩進んだものでいこうとするのも、そこも家族の帯同が可能になるという形で今変わってきているので。
　今、特定技能は多分何年かやれば、家族帯同OKだったりするが、さらに制度が近々変わりそうなので、その辺りはまた国の制度を見ていただいて。

（別府副委員長）
　産振計画の中でも、やはり常にその担い手確保、担い手不足、常々俎上に上がってきた課題になってきていると思う。当然、日本人の方が確保できれば一番いいが、実際いろんな分野ですでにこの外国人の実習生はかなりの労力を担っている。特に大規模にやっていると、うちだけの話じゃなくて恐らく全国的に同じような状態になってきており、国も結局今までの研修じゃなく、この深刻な労働力不足を背景にした人材確保にウエイトを置いたような法制度の改正も今国会に出されているようなので。
　ただ、それが本当に香南市として、要は雇用主だけじゃなくやはり長く住むとなると、そ

の地域の住民との話も当然で出てくるのでそこは、今度の産振計画或いは総合戦略の中でしっかり議論していかないといけないのかなと思っている。

【観光分野】
・商工観光課　萩野課長より、観光分野における令和５年度の総括及び令和６年度の取り組みについて説明。
・観光部会　梶原部会長より部会の様子や補足の説明。

（別府副委員長）
香南市の観光の軸、おそらく香南市の施設でいくとやはりファミリー向け、一番大きな所は動物公園だと思うので、アクトランドやヤ・シィパークなど子供向けの施設を軸にして誘客していくのかなと思っているので、ぜひこの「あんぱん」を機会により掘り下げてやっていけたらと思っている。
それでは意見交換に移りたいと思う。
まずは小笠原委員、観光博覧会について補足等あればお願いしたい。

（小笠原委員）
観光博覧会という形で、やなせたかしさんのドラマが始まるのを契機に行いたいと思っている。
やなせさんのドラマの時期に人がどれだけ来るかというのを目標にしているのではなく、それが終わった後にこれをきっかけに来てくれた人が２回目、３回目この地域にまた来てくれるようにする、ということを目標に進めているので、先ほど梶原さんがおっしゃっていたように、観光分野だけではなくいろんな分野の方にいろんな協力をしていただいて、新たな観光の誘客ができたらと思っている。
朝ドラがあれば、ある程度は絶対観光客が来ると思う。ただ、今回らんまんの時は、高知県470万人観光という過去最高の数字を出しているが、それほど楽観的に見ていない。
能登の地震の震災復興支援を国全体でバックアップする。その同時期に関西万博がある。
日本国内だけでもいろんなところに観光客は分散していくと思う。かつ、アンパンマンミュージアムは、全国に何件もある。アンパンマンを知っている世代というのは、今の30代の方ぐらいからかなと思うが、やなせさん何か話題になっているね、近くのアンパンマンミュージアムへ行こうかということで、こちらまで来ないかもしれないということも考えている。
なので、悠長に構えているのではなくしっかりと広報などもしていきたいと考えている。あと先ほどの外国人の労働者のところで少し気になっているところがあるが、今、技能実習生というのは確かに技術を身に着けるためなので、日本に来たいと思うと思う。
石丸委員がおっしゃったように、３年来て働いたら国で家が建てられるという時代だったのが、おそらく今日本はとても貧乏な国になってきていると思う。
日本人でも外国に労働に行くようになってきているので、これから日本が外国人に働きに行きたいと選ばれるようになるには、少し何か考えているところがずれてきているのではな

いかなと先ほどの話で思った。日本人自体も日本で働くのがつらい時期に、外国人がもちろん日本に働きに来てくれるとも少し考えづらいかなと。

特に観光分野において今日本は安くて行きやすい国になっている。昔は憧れの国だったのが本当に行きやすい国になってしまっており、特に高知県は京都や北海道、沖縄などいわゆる日本の観光地に比べるととても安い所である。かといって観光の食事や入場料金を上げてしまうと、日本人が来られなくなると思うので、そこをどうバランスを取ってこれから観光を進めていくのかというのも、高知県の問題というよりは日本全国の問題かもしれないが、そこを検討して行かないと外国人労働者も来てくれない国になるのではないかなと感じているところがある。

（江口委員）

外国人労働者の件で言うと、私が懸念しているのもまさにそこの部分であって、さっきもありました技能実習の制度というのもなくなる。なくなって、まさに学びに来るのではなくて働きに来るという形になる。そうなってくると選ばれてしまう、地域が。給料の高いところに行ってしまう。

これから先にこの産業振興人材確保という点で外国人を取りたいと言っても、今も厳しいがもっと厳しくなる時代になってきている。

高知県自体は総じて賃金が安い、外国人労働者に対して。それでもやはり働き手を確保しなければいけないということで、高知県庁ではそういう人材確保戦略を立てて、賃金では叶わないかもしれないが、その他の分野で何か補えるものはないかとか、そういう部分の検討ももう三、四年ぐらいで始めている。

なかなか選ばれず外国人も来ない状況になっている。それを、先ほどあえて投げたのは、いや、外国人でも人来てくれたらいいよという戦略をもってしても、高知県では叶わない状況が今生まれているというところで、それが非常に危険だというところの中で、ただ、人を雇いたいという意向がもしかして業界とかに、どこまであるのかなというのをお聞きしたところ。

（別府副委員長）

あんぱんで盛り上げていこうと思ったが、担い手対策が非常に重たい。外国人の人材確保もなかなかままならないような時代が来るということで、明石委員も昨年事務所を開設した時に、高知県の給料で募集したがやはり人が集まらず、東京の給料で募集したらやっと人が来てくれたという話なので。

まずはその給料も全国と比較してどうか、今の話だと外国と比較してどうかみたいなこともあるかもしれないので、外国人材ですら楽観できない状況になりつつある。

今後、次期計画或いは総合戦略の中で、このメンバープラス香南市民を巻き込んだ話にしていかないといけないのかもと思っている。

それではあんぱんについてもう１回引き戻して。実行部隊の森尾委員さんどうか。

（森尾委員）

DMO さんが一生懸命、香美・香南・南国を何とかつなげていただき、このエリアにもたくさんの方が来ていただけるようにという取り組みをしてくださっており、それらのメンバーとして、香南市やこのエリアにもたくさんの方にお越しいただき、そして高知県も「どっぷ

り高知旅」というキャンペーンが始まったので、高知泊ももちろんだが香南市や物部川エリアでの宿泊日数も伸ばして、このあんぱんをきっかけに来てくださった方が、こんなところが面白いというふうなエリアになっていけたらいいなというふうに思っている。
　他には、SNS の発信などの目標値が、観光部会の方で上方修正になったようであり、なるべく頑張っていきたいと思う。

（梶原委員）
　片手間でやられているというお話だったが非常に工夫をされて取り組まれている。
　ホームページへのアクセス数は年々伸びてきており、インスタ、フェイスブック、非常に伸びている。
　エリアの顔という点ですごく伸びており、それに対して少し目標値が蚤の心臓のようになっていたということで、部会で話をして前年までの伸び率を鑑みて強気な目標設定のお願いをしたところ。

（別府副委員長）
　みんなで盛り上げていきたいと思う。
　川﨑委員、あんぱんもあり今観光だけではなく、商業分野、企業、飲食店のみなさんにも広げていきたいと思っているがいかがか。

（川﨑委員）
　会長が委員に入って自分も幹事会の方で入らせていただいているが、基本商工会は事業者支援団体なので、お客さんが来ることは見込まれるので、それがいい波及効果が受けられるように、事前に準備の支援であるとか、設備投資の戦略などをしていきたいと思っている。いろんなイベントをされると思うが、それに対してもできることは協力していこうと考えている。
　コロナも明けて、飲食店の売り上げも回復傾向にあるがやはりものが高くなっているというところ、いろんな業種で多分、製造業の方でも小売の方でもそうだが、やはり売り上げが戻って、その収益性がすごく悪くなっていることに加えて、先ほどから皆さん懸念事項になっている働き手不足というところがあるので、それに対して県ではデジタル化や、省力化の設備の導入などいろんな施策があるので、そこをうまく活用してもらいつつ、事業所の支援をしていきたいと考えている。

（別府副委員長）
　先ほども小笠原委員の方から、やはり人をたくさん呼んでくるというよりは来たお客さんをしっかりおもてなしして、リピーターになってもらえる、また繰り返し来てもらえるようにすることが大事だと、そういうような形で、ぜひ、ドラマの放送までに博覧会までにしっかり準備をしていただけると思うのでよろしくお願いしたいと思う。

　議事①について、令和５年度の総括及び令和６年度の取り組みについて、ご確認いただいたということでよろしいか。　⇒　異議なし

それでは次に、議事②次期計画の策定について事務局の方から説明をお願いしたい。

② 次期計画の策定について

・事務局より、令和７年度から９年度の３年間で策定する計画案を説明。

（別府副委員長）
今年度、第２期の計画を振り返り、総括をしたのちに第３期計画を作っていく。
この件についてご意見、ご質問等はいかがか。

（特になし）　⇒　（承認）

今日はなかなか掘り下げた話ができたのではないか。
課題はまだたくさんあるが、ぜひ皆さんと力を合わせて進めていきたい。
また何かご意見等があれば事務局へお願いしたい。
進行を終わり事務局にお返しする。

（事務局）
事務局より令和６年度のスケジュールについて説明（参考資料 2）

◆ 閉会挨拶
（別府副市長）
皆さんには長時間にわたり熱のこもった意見、現状のご説明をいただき感謝申し上げる。
産業振興計画と総合戦略、同じように香南市の未来を見据えた計画としてしっかりと作っていかなければならないと考えている。
今日も話が出たが、担い手の問題など非常に重たい課題もあるが、ここにお集まりの委員の方にご意見をいただきながら、少しでも解決できるような取り組みを考えていきたいと思っており引き続きご協力のほどよろしくお願い申し上げる。

（事務局）
以上をもって令和６年度第１回香南市産業振興計画策定委員会を終了する。

以上